



大内秀高
精神科部長

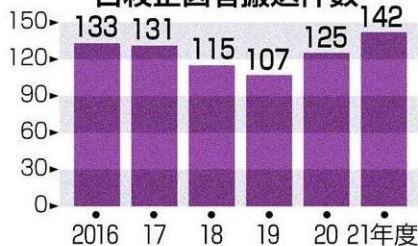
合に受け入れる専用病棟も備えている。身体と精神を合併した患者の受け皿は県内では不足していて、同院



<242>

県内唯一の3次救急医療機関として、命に関わる重篤な患者を24時間体制で受け入れている山梨県立中央病院。あらゆる状況に対応するため、精神疾患の患者が重い病気やけがをした場

山梨県立中央病院
自殺企図者搬送件数



精神身体合併症患者受け入れ 専用病棟で治療同時並行

精神科部長の大内秀高医師は「専用病棟を整備したことで安全な治療ができるようになった」と話している。

病棟は「精神身体合併症病棟」と呼ばれ、四つの個室がある。けがや病気など

で救急搬送された患者に入院が必要な精神症状がある場合、身体的治療と精神的治療を並行して行う専用の精神科病棟となっている。2019年11月、同院の高

度救命救急センターに併設する形で整備した。内科、外科などの専門医が

大内医師によると、心身面の急性期治療で入院が必要な患者を受け入れられる県内医療機関は限られている。精神科病棟がない同院も専用病棟稼働前は一般病棟で受け入れている「患者が興奮したり、危険な行動を取ったりする場合の安全面に課題があった」(大内医師)。

加わり、同時並行で治療を進めていく。「いわば主治医が2人いるようなもの。医師間の連携が進み、早期に精神科医が介入できるようになったことで、より全人的な治療ができています」。大内医師はそう強調する。

大内医師は患者の状況について「理由はさまざまだが、自ら命を絶とうとするほど精神的に追い込まれている」と説明。「周囲の関わりが多いほど、自殺を思いとどまらせることができる。専用病棟できめ細かい治療を行い、再企図防止にも力を入れている」と話している。